

草津市立矢倉小学校通信 令和元年9月27日 NO.10



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## 相手の身になってアンテナを張る

毎朝、校門のところで「おはよう」の挨拶をし、子どもたちを出迎えている。返ってくる声の調子は、休み明けの月曜日は元気がなく、金曜日が近づくにつれて元気になっていく。余程学校がつまらないのか、家庭が居心地よいのか…。そんな子どもたちの中に、自分は金曜日が好きだと訴えてくる子がいた。その子から、ため息交じりで自分は月曜日が苦手で、そのわけは次の日も、そのまた次の日も学校があるからだと言われれば、私としてはその深刻な悩みをなんとかしてやりたいと思えてくる。

学校には、楽しいこと、やりがいのあることがたくさんあるはずだと信じているのは私だけだろうか。先生たちは、こんなふうになれば子どもたちはきっと喜ぶにちがいない、興味を持って学習に打ち込めるにちがいないと相談しあっている。また、少しくらいいやなことであっても、みんなと楽しめて、そしてやりがいのある行事が用意されていれば乗り越えられるのではないかと、いろいろ工夫している。

私としては、これだけがんばっているのだから、せめて、「今日の給食のデザートはうれしいな。」とか、「今日はプールに入れるぞ。」「あと〇日で校外学習だ。」「お昼休みには〇〇して遊ぼう。」など、子どもの側も、我々の苦勞を察してそれなりに楽しめることをみつけてほしい…。そう願わずにいられない。

子どもたちを何とか奮い立たせたい。ここは一つ、とっておきの励ましをしてやろうと、ある考えを思いついた。それは、どうしても楽しみなことがみつからないなら毎日が金曜日と思えばいいのではというものだ。そこで私は一人の子に言った。「どうしてみんな元気がないのかなあ。金曜日じゃないからかな。毎日、毎日が金曜日だったらいいっていうことなら『ようし、今日は金曜日』そう思い込んで、自分に言い聞かせながら、毎日家を出て、学校に着いたらどうだろう。きっと元気に「おはよう」と言えて楽しくなるはずだし、そうしたらどうだろう？」

一瞬、その子の目は輝いた。ところが、すぐに「あかん、それはあかん。ずっと学校に来なくちゃいけない。土曜、日曜が次の日にあるような金曜日でないなあかんと思う。」

小手先のことで勝負をしようとし、心底、相手の立場に立って考えていなかった自分が恥ずかしくなった。子どもの身になったつもりで編み出した考えの、なんと浅はかなことか。

あすは運動会。どの子にとっても二度とない大切な一日だ。「運動会＝楽しい」と単純に信じ込んでしまわないようにしたいものである。張り切って登校している子どもたちの中に、ひよっとすると何かわけがあって張り切れずにいる子がいるかもしれない。天気のこと、子どもたちのこと、見に来てくださる皆さんのこと…。さまざまなことを気にかけていく、そんなアンテナを張っておきたい。

校長 大林 道範